

■2020年10月19日(月)「当クラブ所属選手の道路交通法違反に関する記者会見」議事録

・株式会社アルビレックス新潟 代表取締役社長 是永大輔より経緯説明

このたびはお忙しいところ記者会見にお越しいただき、誠にありがとうございます。

まずは、弊クラブに所属しますファビオ選手、そしてペドロ マンジー選手が道路交通法違反に該当する事案を発生させ、関係する皆様に御迷惑と御心配をお掛けしたことにつきまして、深くお詫び申し上げます。

両選手につきましては、正式に書類送検されたため、本今朝 9 時より開催された臨時取締役会において、両選手ならびに関係者の処分について次の通り確定いたしましたので、ご報告いたします。

私から読み上げさせていただきます。

ファビオ選手は契約解除。契約解除日が2020年10月19日、本日は。ペドロ マンジー選手、こちらも契約解除、契約解除日は2020年10月19日。株式会社アルビレックス新潟 代表取締役社長 是永大輔、処分内容は減俸処分、100%の減額。処分発令日が本日、2020年10月19日。(対象期間は)本日から2020年12月31日までです。株式会社アルビレックス新潟 ゼネラルマネージャー兼強化部長 玉乃淳、処分内容は譴責処分。処分発令日は2020年10月19日。ただし、2020年10月19日から2020年12月31日の間の報酬の100%を自主返納する。という処分を下しました。

改めて、このたびはアルビレックス新潟を愛するすべての皆様に、心よりお詫び申し上げます。

本件につきましては、事象発生から対外発表までのタイミングについて、そしてファビオ選手の任意捜査中の試合出場について、道義的に間違った判断をしてしまったと思っております。このことに関してもお詫びを申し上げます。

Jリーグクラブは地域の象徴であると思っています。社会的に高潔な存在であることが求められていると思います。そして、もちろん新潟県を代表するプロスポーツクラブだと思っています。そのアルビレックス新潟のトップとして非常に大きな責任を感じています。申し訳ございませんでした。

改めて、事象発生から今日ここに至るまでの経過を説明させていただくとともに、皆様からのご質問にも真摯に答えさせていただきたいと思っております。

大変申し訳ありませんが、着席して説明させていただきます。

改めて事件の概要説明でございます。

9月17日ですが、飲酒の席には選手3名、そしてスタッフ1名の計4名がいました。ファビオ選手が自家用車で来たことについて、他の3名はその時点では把握していません。ファビオ選手が帰宅途中の午前1時から2時

の間に取り締まりを受けて、酒気帯び運転が発覚しました。なお、現行犯逮捕とはならず任意捜査となりました。その後、スタッフより玉乃へ、ファビオ選手が取り締まりを受けたことについて報告がありました。

同日、是永、玉乃 GM で警察に出向き、状況の共有、捜査協力の合意、今後の選手の行動制限などについて確認を行うとともに、監督に対し、関係者の練習参加、試合参加が可能であることを伝えております。

なお、この時点で選手・スタッフ・取締役会・監査役会への報告はしていません。

9月18日。取り締まりを受ける前に同乗していたペドロ マンジー選手も、取り締まりの際のファビオ選手の証言によって、任意捜査の対象となりました。引き続き任意捜査であり、事実関係が確定しなかったため、捜査完了まで通常活動をさせることを決定いたしました。

10月12日。Jリーグより玉乃 GM にメールにて問い合わせがありました。

10月13日。玉乃 GM からJリーグへ返信。具体的な選手名は伝えず事象のみ報告させていただきました。

10月14日。是永社長からJリーグへ報告しました。報告内容は前日と同内容です。

10月15日。警察の任意捜査がすべて終了し、同席したマンジー選手以外の2名については、ファビオ選手が車で来ていたことを把握していなかった事実が確定的となり、かつ19日月曜日までにファビオ選手、マンジー選手が書類送検される見込みとなったことを踏まえて、午後8時40分に本事案に関するプレスリリースを行いました。

10月16日。Jリーグへ報告書を提出しました。ファビオ選手、マンジー選手が書類送検されました。

10月19日。臨時取締役会において、両選手と社長、GM に対する処分が決定されました。

ここに至る経緯について、メディア皆様やファン・サポーターの皆様より、疑問や質問がクラブに寄せられております。これについて、数多くあったいくつかの質問について、皆様との質疑応答と前に私から説明させていただきます。

まず、大きく二つのポイントがあると思っています。なぜ事象発生時に对外発表しなかったのかということです。

これについては、今だからこそ、このように感じるのですが、ファビオ選手については、立件されていなくても、飲酒運転ということを考えれば、即時に对外発表をするべきだったと、今は猛省しております。

他の3名においては、警察の任意捜査中だったので、事実関係が明らかになるまでは、捜査対象者のプライバシー保護の観点から、公表のタイミングについては慎重になる必要があったと考えておりました。

つまり、誰に罪があって、誰に罪がないのか、という状況の中では発表することができないと思っているからです。

また、そもそも飲酒運転は隠蔽できる事案ではないと思っているので、最初から隠蔽の意識はありませんでした。

ファビオ選手も含めて、すぐに発表できると思っていたのですが、取り調べ対象者に外国人が含まれること、複数に渡っていることによって、捜査に約1ヶ月を要しています。さらに、私の判断ミスがゆえに、この事態を招いてしまったと思っています。つまり、これだけの期間がかかるんだということを想像できなかったことが、今回の事態を招いた大きな要因だと思っています。こちらについても深く反省しています。

同乗者以外にも飲酒に同席した選手やスタッフはファビオ選手が運転して帰宅したことを知らなかったのかということに関してですが、警察の捜査の結果、他の2名については事件とは無関係という結論に至りました。その2名は知らなかったということで報告を受けております。よって、彼らの氏名を公表することはしません。

続いて、なぜJリーグへの報告も遅れることになったのかということについてです。警察の任意捜査中は、対象者のプライバシー保護の観点から、その時点で報告できるものではないと思っておりました。公式発表と同様、警察の捜査結果を確認してから、報告を行うという段取りが正しいのではないかという判断をいたしました。

しかし、やはり今振り返ると、Jリーグには、ファビオ選手のケースと、他の3名のケースというのは、今考えてみると、全く別の案件だということが分かるのですが、分けて考えて、事象発生直後に、例えば3名については名前を伏せて相談するんだとして、そしてこれまでの知見から適切なアドバイスを受けるべきだったと思います。そうすれば、選手のプライバシーを保護しながら、現在、残念ながら発生してしまっているファン・サポーター、パートナー企業など、多くの関係者の方々が現在感じている不信感のようなものを軽減することができたのではないかと後悔しています。その点についても判断を大きく誤ったと思っています。

また、もうひとつ。Jリーグに報告したことをリリース内容に付記させていただきましたが、その際の表現が非常にまずく、発生直後に報告した、情報共有をしているというような形にとられかねない、表現であったために、多くの誤解を招いてしまったことに関して、お詫び申し上げます。

続いて、なぜ捜査中に謹慎にしなかったのかということについてです。こちらについては、先ほども少し申し上げたように、本来はファビオ選手のケースと他の3名のケースを分けて考えなければいけなかったと思っています。当時は、ファビオ選手以外の捜査状況は定かではなかったため、ただし、一緒の場にいたことで一緒の事案だと、4人のケースを一緒に考えてしまい、捜査中はファビオ選手も含めて、通常活動を許可する方針にしてしまいました。

一部の真実がわからなかったこと、関係者が多く、誰にどの程度の処分を与えることが適切なのか判断できなかったため、警察での捜査が完了するまでは、推定無罪の考え方に則って、捜査対象者へのプライバシーへ配慮しました。

しかし、繰り返しになりますが、現行犯の飲酒運転で有罪が確実なファビオ選手にまで通常活動を許可した判断については、これは法的に問題がなかったとしても、やはり道義的に会社として間違っていたと、今は猛省しています。

そのため、今後は再発防止のために、社外取締役を中心とした社外からのチェック機能を充実させて、不祥事に対して、社長とは別に独立的に対策を議論・チェックする機関を社内に設置して、情報をいち早く社外役員、または監査役など報告する機能をしっかり作り、同じ過ちが起こらないようにしていきたいと思います。

続いて、もし送検されなかったら公表していなかったのかということに関して。公表については、どういう結果が出たとしても、実際に飲酒ということが確実であるのであれば、公表すべきだと思っていました。ただ今となっては、その結果を待たずとも然るべき対応にできるべきだったと深く反省しております。つまり、ファビオ選手のケースは即座に発表しなければいけなかったと思っています。その他の3人のケースは、警察の捜査が終了次第、白か黒か分からないので、正しいと思っていますが、ファビオ選手の件は間違ったと思っています。

再発防止策につきまして、今回の問題の発生の原因は3点あると思っています。ひとつが、会社としての組織ガバナンスです。2つ目は、飲酒運転に対する認識の甘さ。特に外国人選手の文化間の相違による認識の違いということが原因だと思っています。3つ目としまして、選手のメンタル状況などによる判断力の低下があるかと思いました。今後の防止策としては、会社組織のガバナンスという面では、先ほど申し上げたように、例えばコンプライアンス対策委員会、またはコンプライアンス対策委員室を設置して、情報をいち早く社外役員、または監査役に報告する機能はしっかり作るということです。2つ目の飲酒運転に対する認識の甘さに関しましては、飲酒運転を含むコンプライアンス講習を選手・スタッフを対象に、シーズン初めに開催して、四半期に1度のコンプライアンス講習会を実施します。新加入の選手に対して、特に外国人選手に対しては、集団講習に加え、個別の飲酒運転の啓蒙レクチャーを実施する予定です。3つ目の、選手のメンタル状況になどよる判断力の低下の意味については、トレーナーが月に1回、選手のメンタル状況を確認して、心配されるコンディションの選手に対しては、適切なケアの担当者を選抜、配置し、クラブが積極的にケアを試みます。以上3点を実施して、再発防止につなげていきたいと思っています。

私から先んじてご説明させていただく内容は以上となります。

■質疑応答

—今の説明の中だと、発表をすぐにしなかったのは社長の判断ミスと仰っていたが、その判断ミスというのは、道義的に問題があるということがわからなかったということでしょうか。(新潟日報)

そうです。今時点で考えると、それは間違っていると思います。

—組織のトップにある責任のある方が、そういう一般常識的なことが分からないというのは、今後問題になると思う。そこについてはどう思うか？(新潟日報)

私以外の方々からもチェック機能を設けて、今回の件のようなことが起こらないように、間違いを正していきたいと思えます。

—まず1点目として、事案が発生したときには是永社長以外に、すぐにこの事案を把握したのは誰だったのか。(NST 松村)

私と玉乃と監督です。

—それはその3名だけで留めておこうという約束があったということか。(NST 松村)

はい。留めておくという約束がありました。その時はそう思っていました。その後で監督が、ある一人の選手だけには伝えたということを数日前に知りました。正確に言うと、その4名なのか、その先なのかというところだと思います。

—一次を2つ目の質問にさせていただきたい。監督には試合参加、練習参加が可能であるというふうにお伝えになったという話だが、これは出したいという、試合に出したいという気持ちがあるうえで、可能だという伝え方をしているのか、それともアルベルト監督のご意見をここで伺っているのか。(NST 松村)

先ほど申し上げた中に、警察に捜査協力をする中で、その期間中は、例えば練習参加をされているのか、試合参加をされているのか、試合に出場されているのかということを警察にお尋ねしたところ、それはクラブの判断です。確かにそうだということで、その時点ではそのように思いました。アルベルト監督にもそれを伝えたと。それから先は、使う・使わないというのは、監督の判断だと思いますので、私たちが何かを強要するということはないと思います。

—この一件を警察から玉乃 GM と一緒にお聞きになったという話だが、そのとき社長はどんな気持ちだったのか。どう受け止めたのか。あるいは玉乃 GM とどんな話をしたのかということをお聞かせいただきたい。(TeNY 内田)

どんな気持ちだったかと言うと、茫然とするしかなかったです。そのタイミングでファビオだけではなくて、4名の関係者(※)がいたということで、どうやってこれを発表するのだろう、どうやってこれを処理するのだろうということで、非常に頭を悩ませました。

(※)正しくは選手3名、スタッフ1名の計4名の関係者。

—冷静にもし判断できたとしたら、状況が状況だと思うが、その時点でどんな未来を予想していたか。(TeNY 内田)

やはり一番頭をよぎったのは、サポーターのことです。ファビオは、ファビオもそうですが、他の4人(※)にもそう

ですけど、どうなるか分からないなという中で、すごいサポーターの皆さんが期待してくれているのに、がっかりしてしまうなということに対して頭を悩ませていました。

※正しくは選手3名、スタッフ1名の計4名の関係者。

—今回の容疑について、お二人とも認めているということか。(BSN 堀)

はい。認めています。

—当時の状況について話していることや、説明していることはあるか。(BSN 堀)

それは、当時の状況について説明しているということは、どういうことでしょうか？

—取り締まりを受けてしまったということだが、どうしてそうなったかということだが。(BSN 堀)

それは関連する答えになるか分かりませんが、本当にどうしてこうなっているか分からないというような回答でしたので、常習性のようなものはなかったんじゃないかと思います。

—意図せずに飲酒したまま運転してしまったというような説明か。(BSN 堀)

はい。本人に関しては、新型コロナウイルスの期間が終わって、またすぐにケガをしてしまって、家族と離れ離れになって。だからと言って、飲酒運転していいというわけではないのですが、そういう部分のメンタルの揺らぎみたいなものがあつたのかなと、今思えばあります。そういう部分は、本人は思っていたのではなかと思います。

—先ほど社長の判断ミスという言葉があつたが、判断ミスを招いてしまった原因というのは、認識の甘さなのか、社長の気持ちなのか、どういったところが今振り返ってみて考えられるか。(UX21 神田)

まず、非常に混乱してしまったというのがあります。先ほど申し上げましたけれど、答えとしてはファビオのケースだけは先に出さなければいけなかったし、処分しなければいけなかったのですが、事件を一つとらえてしまったがために、誰が黒で誰が白か分かるまでは発表ができないと思ってしまったことが最大の間違いの要因だと思います。もしかしたら、例えばファビオをそこで発表していて、その間、一か月後にまたマンジーを、今回のケースで言えばマンジーの捜査が終わったので発表するというようなケースがあつたのかもしれませんが。

—飲酒運転というケースの中で、取り締まりを受けたという時点の中で、その人を試合に出すという判断がそもそも間違っているのかどうかというところを、立ち止まるタイミング。例えば、全員との話し合いの中など、立ち止まるタイミングはあつたのか。(UX21 神田)

そういう意味で言うと、なかったと思います。それが大きな間違いでした。だから、第三者機関みたいなものを作らなければいけないと思いました。

—Jリーグから12日にもし問い合わせがなかったら、公表する意図はなかったということか。(NHK 山口)

いえ。先ほどから申し上げている通り、書類送検のタイミングというのが一つ。罪が確実というか、確定になるタイミングだと認識していますので、書類送検されたら誰と誰を発表しようということで考えていました。

—それは選手名を伝えずに、事象のみに報告をしたというのも、書類送検を待つ時間だったということか。(NHK 山口)

もう一度よろしいですか。

—13日と14日に選手名を伝えずに事象のみの報告となっているが、それは書類送検が終わっていたということで、選手のプライバシーの保護をとということか。(NHK 山口)

そうです。はい。

—また、発表まで出場させないという判断はなかったのか。(NHK 山口)

はい。まさにそこが仰る通りで、仰る通り出場させないのが良かったと思います。つまり、練習だけ参加させて試合は参加させないとか、いくらでも方法があったのに、試合に出場させてしまったことでこれだけ問題が大きくなってしまっていると認識しています。なので、そこはファビオに関しても、みんなが推定無罪で白じゃなくて、ファビオに関しては、でもやっぱり黒に近い、実際黒なんですけど、グレーなところで抑えなければいけなかったよね、という判断はしなければいけなかったと思います。

—先ほど、ファビオ選手もマンジー選手も容疑を認めているというお話があって、ファビオ選手は試合に出場するにあたり、自分の気持ちは何か仰っていたか。(新潟日報)

いえ、特にそこは何も言っていなかったです。

—試合の出場については、普通に認めて出たという認識でいいか。(新潟日報)

はい。特にその、意気込みとかということですか。

—いえ、それに対する抵抗感のこと。(新潟日報)

特にそれはなかったと思います。

—15日にZoomの方で他のチームメイトにこういう書類送検があったということを伝えたということだが、そのと

きのチームメイトの反応であったりとか、どういったものだったか。(日刊スポーツ 小林)

最初はみんな、話をする前は和気あいあいと集まってきたんですけども、やっぱり話が進むにつれて、みんなの顔色が変わってきて、終わるころにはもうみんなシーンとしているような。非常に申し訳ないなと思いました。

—そのことに関して、選手の方から意見は出なかったか。(日刊スポーツ 小林)

その時は出ていません。明日も改めて選手たちには説明に行きます。

—9月17日に事案が起きたが、ファビオ選手はその時点で飲酒運転を認めたということ。(スタンダード新潟 井上)

認めました。

—社長がこの飲酒運転という事実に対して、どう思うか。一般的なこと。そのときではなくて。(スタンダード新潟 井上)

許せないことだと思います。

—その判断は、ファビオ選手から飲酒運転だと聞かされた時は、それはなかったのか。(スタンダード新潟 井上)

ですので、先ほどから申し上げているように、この事案を一つとして見てしまったことが、これを一つで全部解決しないと言うべきじゃないんじゃないかと思っていた自分がいて、それが大きな判断の間違いでした。

—今日、ファビオ選手とマンジー選手、契約解除という処分内容が出たが、根拠というか、理由を教えてください。(新潟日報)

クラブとして飲酒運転に対しては、何と言うんでしょう、厳罰に処すということを最初から決めていました。

—マンジー選手とファビオ選手だと、事情が異なると思うが、この点はどういうふう判断されたのか。(新潟日報)

事情は違いますが、日本の法律だと変わらないですよ。飲酒運転、同乗って言うんですっけ？

—正式には、ファビオ選手が道交法違反の中の酒気帯び運転です。マンジー選手は酒気帯び運転のほう助、ほう助罪というふう。罪の刑罰は一緒です。(三部弁護士)

—その認識がありながら、他の3人。ファビオ選手以外の3人の対応に関して、マンジー選手を含めた対応に

関して、慎重になっていたというのは、どういうお考えか。(新潟日報)

例えば、その時に同席していたもう一人の選手が飲酒運転と認定されるかもしれませんが、マンジーはそうになりましたけれども、実際最終的に警察の捜査が完了してそうなるまでは、僕らは結論を出すことはできないというふうに思っていました。

—ファビオ選手の判断に関してはミスだったと仰っているが、同じような結果的に法に触れることになったマンジー選手の判断については、正しかったというふうにお考えか。(新潟日報紫竹)

例えば、待つてマンジーが書類送検されないというケースもあり得たと思うんですね。詳しい操作内容は、進行している中は分からないので。ただ、こうなつてマンジーも書類送検されるということになれば、それは処分をしなければならぬし、そうじゃない選手、もう一人の選手ともう一人のスタッフもいましたけれど、彼らもし書類送検されたら、処分をされなければいけなかったと思いますが、されなかったので処分がなかったという認識です。

—10月15日にJリーグの方からメールにて問い合わせがあったということだが、これはどういう形でJリーグが知つて、クラブの方に問い合わせが来たのか。(フリーランス 大中)

第三者が、何と言うんでしょう、通報というか、情報だと聞いています。

—過去、Jリーグでも飲酒運転で非常に厳しい措置をクラブがとつたという前例があるが、それは事前に是永社長も案件について当たつたということはあつたのか。(フリーランス 大中)

あります。過去の事例については調べました。

—そのうえでのこの事態ということで。(フリーランス 大中)

お恥ずかしいですが、そういう事態です。申し訳ございません。

—ただいま質問の中で、10月15日というふうに仰いましたけれども、10月12日が正しくなります。(司会者)

—今ほどの質問と関連するかと思うが、リーグやチームの中でこういったことが起つたときのマニュアルや対策みたいなものは、あらかじめ決まっていたりすることは、そういったことは特になつたのか。(毎日新聞 井口)

はい。ですので、こういう事態を招いてしまいました。ですので、コンプライアンス対策室、委員会なのかを作つてですね、今後は再発防止に努めたいと思っています。

—あと、もう1点。結果的にこの2人の選手をチームとして失うというか、契約解除ということになつてしまつた

が、2人の選手を失うことになってしまったことについて、今どのように考えているか。(毎日新聞 井口)

やはり今回、我々、私と玉乃の管理監督責任というところに繋がってくると思うんですけども、クラブとしても選手たちにちゃんと伝えることがあったと思っておりますし、もっと管理監督をしなければならなかったと思っています。

—先ほどからの質問と重なるが、Jリーグから今後何か制裁であるとか、そういったものに関して、現段階ではどういう連絡であり、どんな報告を受けているか。(TeNY 内田)

我々の方から16日に報告書を出しました。今回、今朝の臨時取締役会での処分というのを併せて、最終的にもう一つの報告書にして送ります。それでコンプライアンス領域がまずは検討して、チェアマンと話をして、それが裁定委員会まで行くのか行かないのかということも含めて、今後決まってくると思います。僕らは何も判断ができないので。

—実際、例えばチェアマンとお話になったりとか、あるいはこの日くらいまでにリーグから何らかの通達があるだろうと。そのあたりの見通しは。(TeNY 内田)

僕らはそこに関しては何も分かりません。

—選手周り、それから選手と監督との間のコミュニケーションの部分にも関わってくる部分で、本来であれば強化部長というかGMがそういった部分で責任を持つ立場なのかなと思うが、その部分に関してはどのようにお考えか。(フリーランス 野本)

ですので、今回、私と玉乃のクラブとの契約形態が違うので、ちょっと表現は違うんですけど、同じ年末まで無報酬ということで、同じレベルというのかな。罪ではないんですけど、同じレベルの重さを抱えていると思っています。

—去年シーズンが終わったときに、フロントと現場のギャップがあったので、そこを解消するために新たにGMという職を設けたというふうに仰っていたと思うが、実際今回の事案でも、例えばGMは言葉もできたり、より選手のサポートだったりケアもできたんじゃないかと思うが、そのあたりはいかがだったのか。(フリーランス 野本)

そうですね。そこも含めての改善というのはこれから必要になっていくかなと思います。仰る通り、どのクラブでも同じだと思うんですけど、現場とフロントっていうのがやっぱりいろんな問題が起こってくると思うんですね。そういうものが少しでも少なくなって、一緒に上に上がって行けるためには、間に入ってくれる人というのは、とても必要になると思います。

—結果的に現場判断としてアルベルト監督は選手を起用していたと思うが、その部分の責任についてはどうお考えか。(日刊スポーツ 斎藤)

私は、今回の処分でもありますけれども、監督に責任はないと思っています。監督はあくまでオン・ザ・ピッチのことを考える人であって、その周りの選手のプライベートを含めて考える人は玉乃であり、最終的には私だと思います。

—その監督が選手を起用しているという情景を見ていて、是永さん自身、違和感であるとか、後ろめたさというのはなかったか。(日刊スポーツ 斎藤)

今思えば、本当にそれは失敗だったなとしか思えません。一つその、飲酒運転が現行犯で、立件されていないとはいえ、黒であることは確実であるにも関わらず、それは本当にお恥ずかしいと思っています。

—前の質問に関連した質問だが、冒頭で先ほどもお聞きしたが、監督に試合、練習に参加可能であるとお伝えになったうえで、アルベルト監督からお気持ちの部分で、何か僕はこう思うけどという心情が汲み取れるようなアルベルト監督の発言はあったか。(NST 松村)

そこは玉乃と監督が話をしているところですので、私は関知していないんですけども、今のところそれは聞いていません。

—今回、ファビオ選手がけがをされていた間はなかなかチームが苦しい部分もあったりして、ファビオ選手だから出し続けたかったという、そういう気持ちはフロント側にあつたのではないかと邪推してしまうが、そのあたりいかがか。(NST 松村)

見ようによっては、この状況で考えると、そう見られるというのは、とてもよく理解できます。ただ、それがファビオであっても誰であっても、たぶん同じ判断をしてしまったと思います。

—本日の取締役会について。今日の実務取締役会の中で、社長あるいはGMの辞任を要求するとか、そういう進退に関する意見というのは出されたのか。それを含めて、クラブのガバナンスの在り方について厳しい指摘や意見があったと思うが、そのあたりはいかがか。(フリーランス 大中)

そこに関してはですね、私と玉乃の辞任・退任ということに関しては、特に話はありませんでした。ただし、我々はやはり責任が大きいんだよ、大きいよねという話はみなさん仰っていたと思います。あとは今後の進め方に関しては、やはりここに書かせていただいたように何かしらの対策をきちんと社内、あるいは社外の方を含めて常に改善をしていく組織を作っていくとダメだよ、ということで今回の対策として、コンプライアンス対策室、あるいは委員会というのを付けさせていただいております。

—もう一つ伺いたいのが、クラブパートナーへの説明、それから反応。特にトレーニングウェアパートナーのサッポロビールは、アルコール飲料を扱う会社でもあるので、非常に重大な案件になっていると思うが、そのあたりはいかがか。(フリーランス 大中)

すべてのパートナー企業さんに対して、本当に心から申し訳なく思っています。この9月17日のファビオとマンジーの事案の時点で、もうすでに僕らは何て言うんでしょう、すごく大きいものを背負っていると思っています。さらにまた1ヶ月、これからどうなっているんだという、各パートナーさんご説明させていただいておりますけど、サッポロビールさんはお酒を扱っているメーカーさんでありますし、まずは電話で一報入れさせていただいて、あとは新潟支店、明日は東京の本社でお話をさせていただいて、ご説明をさせていただいて、ご理解をいただくというか、今の段階では説明させていただいて。だけしかできないと思うんですね。でも、やっぱり誠意は見せないといけないと思うので、明日また伺います。

—先ほども伺ったが、発表まで出場させないという判断や検挙後にすぐ発表するという選択肢は、チームで飲酒運転について厳罰に処すと決めていた中で、およそ1ヶ月間なかったと思うが、その中で発表するか、出場させない方がいいんじゃないかという声は一切なかったか。(NHK 山口)

先ほどの質問でもありましたけれども、ありませんでした。

—是永社長自身もそういった考え、想いとかはなかったか。(NHK 山口)

ですので、先ほどもお話させていただきましたが、今回すごく複雑というか、一般的な事例と違うのが、外国人が関わっているということと複数だったということで、警察の方で通訳を準備してくれたりとかするんですけども、毎日あてがうこともできないですし、なかなかその辺で時間がかかってしまったと。僕としては、もうちょっと早く終わるだろうと思っていたんですけども、そこが見誤って、大きな問題に発展してしまったと思います。

—15日付のリリースについてだが、Jリーグと前々から情報共有を行っていたと含みを持たせているように感じたが、そういったことと出場させていたということについて、サポーターの方や一般の方の理解が得られると思ったのか、リリースに含みを持たせようとしたのか、どのようにお考えか。(NHK 山口)

それは特に含みを持たせようという意図はなく、書き方がちょっとやっぱりまずかったと。誤解されるような書き方だったとっております。申し訳ないです。

—今考えると、というふうに先ほどから社長は仰っていると思うが、判断ミスをしたんだとご自身自覚されたタイミングだったり、きっかけは何だったのか。(UX21 神田)

今回この発表をしたときですね。結果としては。

—最初のリリースを出したとき。(UX21 神田)

そうです。その反応を見て、とんでもない間違いを犯したなど。これは責任が大きいなどそのときに思いました。

—そこまではご自身の判断に関しては、間違っていないというご認識か。(UX21 神田)

そうですね。そういう意味では、一つのタイミングとして、書類送検が正しいと思い込んでいたと。でも、よく考えるとファビオの件だけは別だったというふうに今は思います。

—発表のタイミングについて、最初 17 日の時点で警察と会ったときに、例えばこの事案について発表すべきか、伏せていいのか、伏せた方がいいのか、警察の方と話したりしたか。(UX21 神田)

これについては、特に警察の方から発表してくださいとか、逆に伏せてくださいという指示はなかった。指示というか話はなかったです。

—最初のリリースに、公表および処分については警察の指示を仰ぎながら、というふうに書かれているが、その警察の指示とはどのようなものなのか。(新潟日報)

今お話したような、例えば試合に出場していいですか、練習に参加していいですかとか、今の質問にあったように。すみません、ちょっと待ってください。公表の件ですね。公表してください、公表するとか、そういうことをいろいろお話させていただきながら、進めてきたということでございます。

—公表する？するな？よく聞こえなかった。(新潟日報)

公表するとか、公表はしないでくださいとか、そういう話はなかったですけど、先ほど言ったような練習に参加しても大丈夫ですか、試合に参加しても大丈夫ですか、それはクラブの判断ですということと言われたということです。警察の指示を仰ぎながらと書いてあるんですけども、相談しながら最終的にはクラブの判断で進めてきたということになります。

—今まで、アルビレックスではホスピタリティーがあり、外国籍選手が飲みに行くときは通訳が送ってあげたり、ゴミの出し方まで教えてあげたり、いろいろしてきたが、ファビオ選手に飲酒運転が悪い事だとは認識していなかったのか。その辺の指導はなかったのか。(フリーランス 富高)

認識をしていたと思います。認識していたのですが、ちょっとした気の迷いというか、メンタル面のところもあったのかもしれない。

—昨日の水戸戦の後の会見、選手の練習においても監督に対して記者からの質問が広報によって静止され、答えてもらえないことがあった。これは社長からの指示だったのか。昨日は水戸戦だったので水戸の広報だったが、広報の独断だったのか。J リーグの指示だったのか。我々記者は時には厳しい質問を投げかけることがあり、ファビオ選手のことは試合に関することだったが、試合に関することではないとのことで制止されてしまった。監督が答えないというのなら分かるが、広報に止められて通訳もしてもらえないとなると、外国人監督の場合、我々は困ってしまう。いい事だけ聞いて書くということは、御用聞きと一緒にになってしまう。まるで隠蔽ともとれる指示があったのか。(フリーランス 富高)

一般的に試合会場、トレーニング会場では試合のことだと思います。試合のことへの質問をお願いしますと事前にお伝えしています。ファビオ選手のことが、どう試合につながってくるのかまで、もう少しお聞きした方が良かったかもしれないですね。申し訳ございません。

—この事件の件でファビオ選手、マンジー選手と社長は面談したり、お話ししたりしたことはあるのか。(スポーツニッポン 渡辺)

あります。

—話せる範囲でいいが、このことについてのファビオ選手の声はこちらに全然聞こえてこない。すごく反省しているのかとか、どうはげましたとか、そういったことはあるか。(スポーツニッポン 渡辺)

特にファビオ、マンジーもそうですが、面会したときはもう、全部自分が悪いと。でクラブが守ってくれているから、そう思ってくれていて、隠蔽しているとかではないですよ。生活を守ってくれているという意味です。なので、本当に感謝しているからクラブに傷がつくようなことがあるならば、自分が行って説明するからと言っていたと聞いています。僕がいたときは、本人も頭を抱えていて、という状況でした。

—今回、解雇という処分が出たが、これについてファビオ選手、マンジー選手のコメントは今後、出るのか。(スポーツニッポン 渡辺)

今の彼の彼らの精神状態が分からないので、今日、玉乃が 2 人に会いに行く聞いていますので、そこでコメントが取れば、ぜひコメントはアップしたいと思います。

—この件が発生してから、そして今日の取締役会まで、是永社長自身の考え、気持ちとして、脳裏に社長の職を辞するという気持ち、そしてその考えはあったのか。(BSN 黒崎)

そういう意味では、この件に限らず、いつでもそういう覚悟でやっていますので、気に入らないから辞めるとか、何か言われたから辞めるとかではなくて、本当に腹をくってやっているつもりでいますので。本当にクラブに迷惑をかけるのであれば、自分が挽回できないことであるならば、辞めよういつも思っています。

—取締役会に報告されなかったということだが、これまでも是永社長と玉乃 GM でかなりクラブを推し進めていくことが多かったと思うが、2 人以外が意見を言にくいような社内の雰囲気、コミュニケーションを取り難い雰囲気とか、今振り返ってみると 2 人のなかでの秘密のことが多いとか、そういう雰囲気を感じていることはあるか。(NST 松村)

契約事の話が多いじゃないですか。選手周りとか。なので、どこのクラブでも基本的には強化と社長というのは秘密の話が結構多いと思います。今回も、多分、そこを間違えました。これは契約の話ではないし、事件だし、

そこは、もっとみんなに共有していなかったから、こういうことになってしまったと思います。

ーアルベルト監督は日本に来るとき、すごく日本人の考え方を尊敬してここで働けて嬉しいと言っていた。今回のことについて、実際にどう考えているかを取材という形でうかがえる機会をつくってほしいと思っているが、どう考えているか。(NST 松村)

検討させてください。検討します。

ーファビオ選手を起用し続けた結果、結果的に解雇という形になってしまったが、それについてアルベルト監督は、話が違うじゃないかではないが、最初の時点で話し合いを社長、GM の 3 人でしてから、この事態ということがあると思うが、それについてアルベルト監督は、現在どう、社長に言っているか。(フリーランス 大中)

この件に関しては、クラブが判断したことが全てだから仕方がない、と言っています。

ー結果的に渡邊新太選手が長期離脱ということもあり、FW が足りない状況になっている。10 月第 3 のウィンドーが開いているが、補強の考えはあるのか。(フリーランス 大中)

今、ここでその質問にお答えすることが、あまり適切ではないような感じがするのですが、今、一番に目指さなければいけないことは信頼回復が最優先であって。それと同時に J1 昇格は決して投げ捨ててはならないことだと思いますので、いろいろな角度から、今、大中さんがおっしゃった事は考えさせていただきます。

ーこの発表が先週の試合前にあったところで、選手に話を聞いたら、選手は自分たちは選手としての仕事をやると。サポーターはサポーターとしてのやる事をやろうということで、非常に水戸戦は頑張ってくれたと思う。それに対して、フロントとしては、どんな仕事で応えたいと思っているか。(フリーランス 野本)

おっしゃる通り、僕らができることというのを最大限やって、信頼回復に努めて、チームもサポーターも選手も不信感とは言わないまでも、大丈夫かと思っている人たちはいると思います。その人たちに、やっぱり大丈夫だと言ってもらえるように頑張ります。

ー当初のリリースに両選手の処分を 19 日に下すと書いてあったが、当初のリリースに玉乃 GM と是永社長の処分についての記載が一切なかったのはなぜか。(新潟日報)

すみません。そこに関しては、抜けていたということしかないとします。突然、今日になって是永と玉乃が処分されたことではないです

ー15 日に発表して、その反応を見て猛省して、自分たちも処分を受けなければいけないと思ったということか。(新潟日報)

そんなことはないです。当初から、これはクラブのトップが責任を取らなければいけないと思っていました。

—当初からとはいつか。(新潟日報)

最初からです。飲酒運転が発覚した時からです。

—でも 15 日のリリースには処分が書いていなかったが、記載忘れか。(新潟日報)

それは、抜け漏れだと思いました。すみません。

—リリースに関しては、私のクラブへの確認では、是永社長と広報とでやり取りをして作ったということだが。(新潟日報)

なので、特に意図はなかったというか。掲載がないから処分するつもりがなかったということではなくて。

—では、当初から処分ということは、もちろん考えていたということ。(新潟日報)

自分から申し出るつもりでいました。

—連の流れで、やはり内輪でおさめようとしたのではないか、意図的だったのではないかと思う人もいると思うが、そういったことは、ないということか。(NHK 新潟 山口)

はい。断じてありません。

—広報に問い合わせたときに、「分からない」という繰り返しがあった。広報以外に、こういったケースにあたるコンプライアンス対策室を立てるということだが、広報の体制、対応に反省すべき点はあるか。(NHK 新潟 山口)

非常にこれはデリケートな問題ですので、法的なものが、もしかしたら絡んでくるかもしれないということもあるので、広報には、なるべく分からないことは、分からないと言わないとダメだということは指示しています。

—今後、対応をしたり、広報について変えることは今の時点であるか。(NHK 新潟 山口)

コンプライアンス部門をつくることによって、「ここまではいいんじゃないか。ここまでは、こういう言い方だったらできるんじゃないか」ということは、今後、言えるようになると思います。

—先ほど、是永社長と玉乃 GM の処分がリリースに抜けていたという答えがあったが、抜けていたという認識をもったのはいつか。(新潟日報)

今、新潟日報の記者さんに、そう聞かれてそう思いました。

ーリリースが出てから、私たちが社長に取材させてほしいと言ったのはもちろんだが、メディアではなくサポーターからも「早く是永社長に説明してほしい」という話が多々あったと思う。15日から本日に至るまで、取材に一切、応じなかった理由を教えてください。(新潟日報)

処分内容がかたまってから、きちんとお話、説明させていただいた方が、納得感があると思いました。「こういう状況です」だけを説明するのではなく、「私もこうなります。選手たちもこうなります」ということを、きちんと説明した方がいいと思っていました。ただ、今、恐らく記者さんが、おっしゃりたいのは、もっと早く対応していれば、こんな騒ぎにならなかっただろう。ということだったかもしれないですね。としましたので、確かに初動の間違い。もっと早く事実関係を伝えることができればということは反省しています。

ー今回のリリースが出たときに、本件に関するお問い合わせということで、広報部4名の連絡先が載っていた。連絡先ということは、ある程度事実を確認していないとマスコミの問い合わせに答えられないと思うが、広報部に一連の経緯を伝えたのはいつか。(新潟日報)

先週のリリースを発表する前、15日です。

ー本件に関する取材をしたときに、「分からない」という回答がすごく多かったが、今日、説明いただいた事は全て伝えていたということか。(新潟日報)

いいえ。そんなことはないです。やはり、どこまで伝えてもいいのかというか、全部真実なんですけど。まだ発表する前にどこまで伝えてもいいのかということを広報だけで判断させるのは、とてもデリケートな問題なので危ないのではないかとというのが、会社として思ったことではありました。

ー非常に、何もよく分からない状態に対応する広報は、すごく大変だったと思うが、そこについて、組織のトップという立場から何か思うことはあるか。(新潟日報)

本当に大変な、昨日もそうですけど、ずっと広報が対応してくれていたのも、おっしゃる通り、もうちょっと組織として、ここまですしゃべろうと、先ほどのコンプライアンスの話ではないですが、きちんとメディアの皆さんにお話しができるような体制づくりをしていきたいと思っています。

ー最初のリリースのときに、読み方によっては勘違いしてしまうような読み方ができるようなリリースを出してしまったと言っていたが、メディアにとってはリリースが投げ所。これで記事も書くしニュースも流すので、誤解を与えてしまうような内容なので大問題。それについて、どう思うか。(新潟日報)

おっしゃる通りです。そこでまた、メディアの皆さんで疑念が生じたしまったということがあると思うので、今後、書き方には気を付けたいと思います。

ー飲酒が分かった2日後のホーム徳島戦にはファビオ選手は出さないという判断は、誰がしてどういう経緯だったのか。(NST 松村)

これはオンザピッチのことなので、監督が決めました。

—アウェイ愛媛戦からは出すというのも監督の判断か。(NST 松村)

そうですね。クラブからは練習参加、試合出場はいいよという OK を出したので。あとは監督の判断です。

—規約としては、練習参加、試合出場してもいいとアルベルト監督に言った時点で、それがクラブの試合に出てもいいという意味だったと考えていいか。(NST 松村)

そこから先を選ぶのは監督だと思います。先ほどから申し上げているように、法的にもルールのにも問題がなかろうが、大きな間違いとして、そこは使ってはダメだったということを道義的に言わなければならなかったということが、今回の一番の反省点です。

—先ほど、このタイミングでの記者会見の方が納得感があったと言っていたが、こちらとしては再三、取材を要求していたなかで、応じてもらえなかったというのは納得感があったと言えるのか。(新潟日報)

先ほども申し上げましたが、非常にデリケートな内容で選手の刑罰、犯罪に関わることですので、なかなか難しかったと今でも思います。なので、このタイミングしかなかったと思います。

—納得するかどうかというのは、こちら側が決めることで、そちらで判断するというのは、どういう考えだったのか。(新潟日報)

納得感があるのではないかと想像していたということです。正しくは。

—それは、取材の要請を受けながらも、今日が納得感があると考えたのか。(新潟日報)

処分が下らないと、誰がどうかということも、きちんと説明できませんので、このような判断になったということです。

—その現状の処分についての取材に限った話ではないと思うが、そこを一早く説明するという認識はなかったのか。(新潟日報)

今になって思えば、その方がいいと思いますので、今後、気を付けたいと思います。

—発表があった日、その翌日、翌々日くらいに、今日の取締役会があった後に記者会見を開くのかと広報部に何度か問い合わせた。その際に開くかどうか分からないと回答をもらった。今日、このように会見を開いた理由を教えてほしい。(新潟日報)

基本的には、やりたいと思っていたのですが、メディアさんも記者会見してほしいという声も聞いていたので、やりましょう。ということになりました。

—アルビレックス新潟は創設以来、県民に愛されて、勝っても負けても、それを含めて新潟県民に愛されるクラブだったと思うが、今回、是永社長の判断で信頼を失墜させたことについては変わりはないと思う。これについて、どう思うか。(新潟日報)

本当に心から反省していますし、とても自分の判断を公開しています。とりわけ、サッカークラブというのは冒頭にも申し上げましたように、Jリーグのクラブはとても社会性が高いもので、高潔な存在であるべきだと思いますし、判断基準として高潔であるべきでなければいけないと思います。なので、法的、規則的に問題がなかろうが、道義的なものを第一にして判断をしていかないと、本当に多くの方々に、いろいろな方々に応援していただいているので、本当に間違っただなと思っています。

—今でも「電気、水道、ガス、アルビレックス」と言えるか。(新潟日報)

言いたいと思います。

—記者会見をやりたいと思っていたのは、いつの話か。(新潟日報)

リリースを出したくらい。もっと前かもしれませんが、いずれにしても説明しなければいけないと思っていたので、臨時取締役会をやると決めたのが、日時が正確ではないですが、決めた後に臨時取締役会の後に記者会見をやりたいと思いました。

—当初、こちらで広報に問い合わせたところ、記者会見を開く予定はないという回答があったが。(新潟日報)

そこは、きちんと連絡がつかなかったのかもしれませんが。

—記者会見をするつもりがあるかと、毎日問い合わせをしていたが、その連絡は入っていたのか。(新潟日報)

記者会見をやらないのかと、広報と話をしていましたが、きちんと皆さんにお伝えできなかったことは反省です。

—それは、やるかやらないかという話だと思うが、その時はやるつもりはなかったということか。(新潟日報)

やるつもりはあったと思います。

—それであれば、なぜ広報から「やらない」という回答が返ってきたのか。(新潟日報)

それが、いつのことなのか分からないので。

ーリリースの当日、翌日、その翌日もだと思ふ。(新潟日報)

そうであれば、私がきちんとした連絡をしていなかったということが、大きな問題だと思います。

ーきちんとした連絡をしていなかったのは、誰にどのような連絡のことを言っているのか。(新潟日報)
私から広報部へ記者会見をやります。

ーこちらから「記者会見ならびに説明をやってください」という要求は是永社長の耳に入っていなかったということか。(新潟日報)

そんなことは、ないです。「新潟日報さんから記者会見を求められています」という言い方はされていませんが、「メディアの皆さんも記者会見を望んでいますよ」と。

ーそれに対して「やります」と広報に伝えたのか。(新潟日報)

もともと、臨時取締役会の後にやりたいと思っていたので。

ーただ、広報からは「やる予定はない」という答えが返ってきたが。(新潟日報)

そこは、連絡のミスというか、情報の齟齬(そご)があったと思います。

ーファビオ選手は事件の後、練習を何日か休んでいると思うが、ファビオ選手自身が休みたいと言って休んだのか、クラブ側が休ませたのか、捜査中だったのか。(フリーランス 富高)

取り調べ対応です。

ーそれ以後の取り調べには練習の後に行ったりと、チームメイトも「おかしい」と気づと思うが、隠していたということか。(フリーランス 富高)

話が戻ってしまうのですが、この一つの事案として考えたときに、ファビオを含めて判断してしまっていたので、誰が白か黒か分からないうちはチームメイトにも公表しない方がいいだろうと。そうでないと、実際に罪のない選手がチームメイトから犯罪者扱いされてしまうかもしれないし、それが外に広がったときには、より大きな問題になると思ったからです。事件を明るみにするタイミングは、刑が確定してからでないとはいけないと思っていたということです。

ーファビオ選手は、確定して略式起訴的な形で、即日納付や罰金だったのではないか。(フリーランス 富高)

(三部弁護士)私の方から、お答えしてもいいですか。今のご質問は書類送検されて、すぐに罰金になるのではないか、というご質問でよろしいでしょうか。

ーはい。(フリーランス 富高)

(三部弁護士)そうではなくて、書類送検された後、検察庁で取り調べがあります。そのうえで、検察庁が判断を決めて罰金にするかどうかということになります。あと、通訳の手配も検察庁がしなければいけなかったので、ある程度の時間がかかるとかかっています。

ー今後もまだ、地検の捜査が続くということか。(フリーランス 富高)

(三部弁護士)はい。そういう認識です。

ー当初のリリースは書類送検の日も明確に書かれている。19日、本日の予定だったが、実際に書類送検されたのは16日。当初のリリースと相違があるが、その理由は。(新潟日報)

私は19日ということを知りました。ただ、警察の方では19日にはということだったんだと思います。

ー警察からは、どういう説明があったのか。(新潟日報)

(三部弁護士)警察からは19日までには書類送検するという話をいただいております。リリースも多分、そういう内容になっているのではないかと思います。確定的に、いつ書類送検するかというのは、明確な日は、なかなか捜査の関係上、教えていただけないのが通常かと思います。実際に発表した後、19日までということでしたが、実際には16日に送検しましたということで、私の方に連絡をいただきました。

ー19日までにはという、確定的ではない情報を、わざわざリリースに載せた理由は。(新潟日報)

ちょっと、それは分かりません。

ーただ、何となく載せた。(新潟日報)

メディアの皆さんは知りたがる情報なのではないでしょうか。もしかしたら。

ー私たちは確定的な情報を知りたい。(新潟日報)

ー記者会見、取材対応に関して、広報と情報の齟齬(そご)があったと言っていたが、齟齬とはどういったものか。(新潟日報)

つまり、記者会見をやる、やらないの部分だと思います。

―是永社長が記者会見をやると言っていたものが、広報に伝わらず、広報から我々にやらないという情報が伝えられたということか。(新潟日報)

そこに若干のタイムラグがあっただもしれません。

―タイムラグというか、やらないという回答がきていたが。(新潟日報)

そこは誤解があったかもしれません。申し訳ございません。

―誤解というのは、どういう誤解だったのか。イエスかノーかの話だと思うが。(新潟日報)

そこで情報の齟齬があったということだと思います。

―それでは、社長が「やる」と言ったものを広報が「やらない」と誤認したということか。(新潟日報)

誤認というか、その情報のやり取りが、うまくいかなかったということだと思います。

―取材対応するかしないか、イエスかノーか。是永社長がイエスと言ったのに、広報にノート伝わったということか。(新潟日報)

おっしゃるように、メディアの皆さんにとっては、非常に重要なお話だと思いますので、今後はきちんと、できる限り情報は開示していきたいと思っています。ですので、記者会見に関してもできる限り開催して、皆さんとコミュニケーションを取りながら、お話をさせていただきたいと思っています。

―飲みの席というのは具体的にどんな会合だったのか。(BSN 堀)

私が聞いているのは、公園だと聞いています。

―公園で選手とスタッフが飲食していたのか。(BSN 堀)

はい。

―新潟市内で運転中に取り締まりを受けたとのことだが、この公園も新潟市内か。(BSN 堀)

はい。

―公園で、どのくらいの量を飲んだか、選手から聞いているか。(朝日新聞 小川)

ちょっと1杯飲んだという量ではないと聞いています。

—17日の時点で、そういうことがあったと選手から報告を受けていて、誰がどういう罪に該当する可能性が高いのか判断できたと思う。そこが難しかったのはどうしてか。(朝日新聞 小川)

先ほども申し上げました通り、ファビオはそのタイミングで黒という恰好にすべきだったと思います。その他の3人は警察の捜査が進まないと分からない状態だと判断したので、書類送検のタイミングをきっかけにしようと思った。でも、ファビオの件もそこに一緒にしてしまったため、今回、非常に大きな問題になってしまっていると思います。

—ペドロ マンジー選手についても話を聞いたときだと、そういったことに該当するとは社長で判断が仕切れなかったのか。(朝日新聞 小川)

しきれませんでした。当初はそれぞれの選手の話に食い違いがあり、事実が見えない状態だったので、警察の捜査に任せる判断をしました。

—先ほどの質問と重複する細かい質問になるが、公園で飲んだのは何時頃からどれくらいまで飲んでいたのか聞いているか。(読売新聞 梅林)

何時からというのは把握していないが、取り調べを受けたのが午前1時から2時頃ということです。それ以上は分かりません。

—1時間以上とか2時間以上ということか。(読売新聞 梅林)

恐らく、それくらいは、いたのかと思います。

—是永社長が選手に経緯を伝えたというのは10月15日の報道発表前で合っているか。(読売新聞 梅林)

10月15日に公表したのが午後8時40分で、選手たちに伝えたのは午後8時15分頃からです。

—どのような方法で伝えたのか。(読売新聞 梅林)

Zoomで伝えました。

—クラブ顧問弁護士が同席しているが、9月17日に事案が発生した後、どのタイミングで弁護士の先生に相談をされたのか。そのときにどのようなアドバイスをいただいたのか。(フリーランス 大中)

正直に申し上げると、甲府戦の頃です。早く発表の方がいいとアドバイスはいただきましたが、ある程度まで進んでしまっているのです。書類送検をひとつのタイミングにしたい。そうでなく、中途半端なタイミングで発表してしまうと、いかにも隠したような印象になることがいやでした。

—今ほどあったように、甲府戦でも弁護士の先生から早く発表の方がいいと言われたのに、その時点でも判断ミスをしたということか。(スタンダード 井上)

そうです。そういうことになります。

—この記者会見でも判断ミスということが出ているが、ご自身の職を辞するという判断はいかがか。(スタンダード 井上)

先ほども申し上げたように、いつでも受け入れる覚悟でいます。

—受け入れるということは、言われなければということか。(スタンダード 井上)

皆さんから辞めろという声が多ければ、それは考えなければいけないことです。

—ご自身で判断することはないのか。(スタンダード 井上)

今、私ができることは、ここで辞めてしまうと、なんだったんだとなってしまうので、信頼回復のために、一生懸命にやることだと思っています。

—なんだったんだというのはどういうことか。(スタンダード 井上)

この問題は解決しないと思います。

—この問題というのは。(スタンダード 井上)

ファビオとマンジーの飲酒運転に関わる出来事に関して、私が辞めても解決はしませんし、私が責任をとって、すべてを回収していく流れにしないと、解決はしない。

—その責任をとるというひとつの方法としては、辞めるということも選択肢ではないか。(スタンダード 井上)

もちろん、選択肢の中にはある。

—この一連の問題が大きくなったのも、社長の判断ミスだと思っている。やはり、辞めるのが大事な判断ではないかと思っている。その声は、サポーターからもあると思うが。(スタンダード 井上)

ご意見をいただき、ありがとうございます。

—Jリーグの方に話しがあったのが、第三者であることが引っかけ。その点に関して、何か突かれるようなところ、今日の会見で話しているが、今日の段階で今あることはすべて話している認識で間違いないか。(フリーランス 野本)

そうです。

—確認だが、記者会見だけでないが、取材要請は届いていたのか。(新潟日報)

届いていた。

—それに応じなかった理由は。(新潟日報)

ひとつの処分が出るまでは、待つべきであったというのが、大きな理由だと思う。

—そういう説明を広報にしなかったのか。(新潟日報)

していませんでした。

—それが情報の齟齬か。(新潟日報)

そういうことかもしれません。

—Zoom で選手たちにどこまで伝えたのか。(新潟日報)

その時に話せる内容です。先日にリリースした内容です。

—アルベルト監督がファビオ選手のことを知りながら 6 試合させていたことは、他の選手はまだ知らないのか。(日刊スポーツ 小林)

知らないですね。

—説明するのか。(日刊スポーツ 小林)

あえてアルベルト監督が知っていたか、知っていないかを説明するつもりはありませんが、明日の朝、選手たちへ改めて、今回の経緯、Zoom では説明をしましたが、今回もお話させていただきます。

—J1 昇格を目指すうえで、選手と監督の信頼関係はとても大切だと思うが、そのあたりについては。(日刊スポーツ 小林)

おっしゃるとおり、クエスチョンマークを持っている選手がいるかと思いますので、少しずつかもしれませんが、話をして向き合って、進めていきたいと思います。

—Jリーグから10月12日に問い合わせが来て、玉乃さんや是永さんが説明をしていくなかで、Jリーグからの指示や指導はあったのか。例えば、早く発表しないのかなど。今までどういう理由で公表しなかったのかなどの指摘。(新潟日報)

そのときには特にありません。

—普通に報告して、Jリーグ側は「そうなのか」という感じか。(新潟日報)

そうです。

—報告の方法は。(新潟日報)

玉乃はメール。私は電話です。

—リリースの中に「関係各所への報告と情報共有」とあるが、関係各所とはどこか。(新潟日報)

Jリーグ、警察です。

—警察、Jリーグと出ていて、別に関係各所と記載があるが。(新潟日報)

ここも書き方が雑でした。申し訳ありません。

—ファビオ選手とマンジー選手以外の選手には Zoom で伝えたというが、その後、その選手たちから、なぜ早く発表しなかったのかという疑問の声は。是永さんの耳には入らなかったのか。(スポーツニッポン 棚橋)

私の耳には入っていません。

—選手たちに伝えた内容について、10月12日にJリーグから問い合わせがあり、10月13日に玉乃 GM から Jリーグに報告。10月14日に是永社長から Jリーグに報告した。10月15日に事実が確定的になったとあるが、事細かに伝えていたのか。(新潟日報 紫竹)

伝えていません。

—それはなぜか。(新潟日報)

そのときに伝えることではなかったからです。

—選手たちは10月12日にJリーグから問い合わせがあったということ、結果的にJリーグからアクションがあったということは認識していないということか。(新潟日報)

知らないと思います。

—ファビオ選手とマンジー選手の契約解除の理由は聞いたが、是永社長が100%の減額の減俸処分、玉乃GMが譴責処分となった理由、基準は。(新潟日報)

取締役会が決めることで、私が判断することではありません。管理監督責任が一番大きいところだと思う。

—この処分を見て、どんな気持ちになったか。(新潟日報)

特に感想はなく、受け止めて信頼回復に向けてがんばるということだけです。

—これだけの処分を受ければ、皆が納得すると思っているのか。(新潟日報)

自分が決めることではないから、分かりません。

—ファビオ選手と他の選手の件を一緒にしてしまったということではなく、飲酒イコール即、罰というストレートさが、なぜ是永社長の中で出てこなかったという根っこの部分を説明してほしい。(日刊スポーツ 斎藤)

繰り返しになりますが、事案をひとつに見てしまっていたことが一番の理由です。

—そういう方法論ではなく、心の部分。飲酒イコールだめでしょうという判断がなぜできなかったのか。(日刊スポーツ 斎藤)

書類送検をひとつのタイミングにってしまったということが間違いでした。

—やはり形が出てこなければということか。(日刊スポーツ 斎藤)

自分の中ではそうでした。間違っていたということを今はよく分かります。

—是永社長は就任時に、アルビレックス新潟様の「様」を取りたいと言っていたが、こういう状況をどう思っているか。(NST 松村)

今回は、その話とは別のことだと思っています。「様」とかではなく、稚拙な判断ミス、判断の間違いで多くの方に迷惑をかけてしまいました。「様」との話とは別だと思っています。

—百年続くクラブを目指す上で、根幹を揺るがす事態だと思うが、この節目をどのようなタイミングにしたいと考えているか。(NST 松村)

先ほどもご意見をいただきましたが、辞めろと言われてればいつでも辞めると思いますということ、今日の取締役会でも、そうではなく前の日に、辞めるということももちろん何人かに相談はしました。そのときに、辞めるのはいつでもできるからと言われました。しかし、自分がしたことを取り返さないで投げ捨てるということが、それこそ一番無責任だろうと、そのようなこともたくさんの方に言われました。そのうえで、堂々と辞めたいと思います。どうしても納得がいかない、この時点で辞めろ、あるいは年末で辞めろと言うのであれば、それはそれで、今回の件もあわせて、責任を取ろうと思います。

—自身の進退ではなく、クラブ全体として、この節目をどういう風なものとしなければならないと考えているか。(NST 松村)

改めて、コンプライアンスとは違うかもしれないが、クラブが一番大切なのは、道義上、道義的なイメージであることを再確認していかなければならない、そこから積み上げていかなければいけないと思います。

—リリース発表後に反省していたと是永社長は言っていたが、この間、是永社長は報道陣の前や、サポーターの前に行かれたかは知らないが、具体的にこの期間は何をやっていたか。10月15日から19日、例えばスポンサーに出向いて謝罪をしていたのか。私たちも取材要請をしているのに、答えていただけないのは、なんらかの理由があるのか。今まで何をやっていたのかが、率直な疑問。(新潟日報)

パートナー企業様へのご挨拶というのも当然していました。

—是永社長は皆が前向きになれるような SNS の更新を頻繁にしているが、そのツイートもめっきり減ってしまい、皆が疑問に感じているが、理由はあるのか。(新潟日報)

SNS は個人のもので、会社とは関係ないこと。いろいろと言うことが適当でないと考えたので、更新はしませんでした。

—ファビオ選手とマンジー選手の処分について、契約解除と同じである理由は、どのように考えているか。処分が同じだという理由。(新潟日報)

(三部弁護士)酒気帯び運転とそのほう助。

—ファビオ選手以外の3人の処分には慎重という考えだが、法に触れる可能性は想定していたか。(新潟日報)
していた。

—マンジー選手と一緒にあとで車に乗って、送ってもらって、同乗していたと言うことだが、マンジー選手はどの時点で、ファビオ選手が車に乗っているのを知っていて、他の人がどうやって帰ったかが分からない。(フリーランス 富高)

詳しいことは分かりません。警察の捜査の中で決まったことだから分からない。終わった後にファビオが送ってきました。送った後に、家に帰る途中で警察のパトロールで取り締まりにあったと聞いています。

—ファビオ選手がマンジー選手を送って行くよということで乗せたということか。そこでマンジーは車に乗っていることを気づいたが、他の人たちはまったく分からず解散したということか。(フリーランス 富高)

そういう警察の見解だと思います。

—富高さんの最初の質問に関連して、今回の件で社内調査はしていなかったのか。すべての操作や事実確認は警察に任せていたということか。(新潟日報)

すべてではありません。

—社内でやったことを教えてください。(新潟日報)

ファビオ選手に飲酒運転の事実があったのかを最初の段階で確認しました。マンジー選手にも確認はしたのですが、当初のタイミングでは言い分が食い違っていたので、警察に任せようとした。

—改めて確認だが、ファビオ選手は自分が酒気帯び運転をしたことは、最初の段階から認めていたということか。(新潟日報)

おっしゃるとおりです。

—今回の是永社長と玉乃 GM の処分について、何に対しての処分か。(新潟日報)

先ほどお答えしたように、管理監督責任です。

—今回の飲酒運転に関する管理監督責任か。(新潟日報)

おっしゃるとおりです。

—飲酒運転だけ。(新潟日報)

そういう意味では、大きな判断ミスをしたことが含まれていると、もちろん思います。

—基本的なことの聞き忘れ。10月13日に玉乃GMがJリーグに報告をしたと聞いたが、取材に基づくと10月14日にJリーグに報告したことになるが、それは間違っていたということか。(新潟日報)

誰に確認をしたのでしょうか？

—クラブ側とJリーグ側に確認している。(新潟日報)

クラブ側が14日と言っていたのでしょうか。Jリーグも14日と言っていたのでしょうか。

—そうです。(新潟日報)

正しくは13日です。

—クラブ側にしっかりと14日と確認しているが、なぜ間違いが起こるのか。(新潟日報)

情報が整理されておらずに、そういう話になってしまったのだと思います。

※氏名の公表の非公開を希望する報道関係者は、お名前の掲載を控えております。

※質問者の敬称は省略させていただきました。

株式会社アルビレックス新潟 広報部